

2019年  
12月10日

No.253

# さざなみ

〒520-2141  
大津市大江6丁目23-24
**さざなみネット**  
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)  
 TEL・FAX 077-545-5154

## さざなみネット第11回定期大会 広範囲な人々と歩調を合わせ 地域金融機関としての役割を果たそう

さざなみネットは、11月22日第11回定期大会を、大津市内において開催しました。組合員全員(含む委任状)が参加しました。

大会では、浦谷分会長が「厳しい金融の職場での仲間の状態を思い、今後の活動をさらに進めていきたい」と、主催者・議長としてのあいさつをしました。続いて、滋賀銀行従業員組合の澤井書記長から次のように来賓のあいさつを受けました。

先日滋賀銀行従業員組合は第123回定期大会を開催した。さざなみネットや年金者部会のみなさんにもご参加をいただき、昨年度の総括や情勢・今年度の運動方針などを決定した。従業員組合は大会が第123回、年2回で約61年間の歴史があり、働く仲間の賃金の底上げ・格差縮小・労働条件の改善など、一貫して働く仲間の立場に立つてともに闘ってきた。

最近グローバルな金融経済の影響で所得の上位と下位が急増、格差が拡大し、貧困化対策が緊急課題になっている。また地球規模での気候変動の影響で洪水や猛暑が多発、人類の未来にとって死



活問題になっており、世界各国で若者たちが街頭に出て、大人たちに温暖化対策を訴えている。

日本の政治を見ているといろんな問題で逆行している。子どもからも安倍首相は、人の声を聞かない、嘘をつくという話が出ている。

金融機関は異常な金融政策・ゼロ金利の影響で地域金融機関としての役割を果たせなくなってきており、地域経済再生のため中小企業や地方自治体などを含め、広範囲な人々と歩調を合わせていける条件が出てきている。みんなで情報を出し対策を立て頑張っていこう。

(議題)

### ・前大会以降の活動

組合員と機関紙・交流会・電話やメールなどでつながってきた。毎月分会会議を開催し、情勢や職場の状況について論議し、機関紙を毎月発行した。近畿地協・金融ユニオン・友好組合や民主団体の会議や集会などに参加し学習した。

### ・これからの運動について

上部団体などの運動方針に基づき、また金融政策や労働政策などを学習し、活動する。

### ・前年度決算・会計監査報告・予算(案)(省略)

### ・役員について(省略)

討論では職場の状況や人間らしい働き方、組合の役割などについて意見を交わし、全議案とも提案通り採択されました。

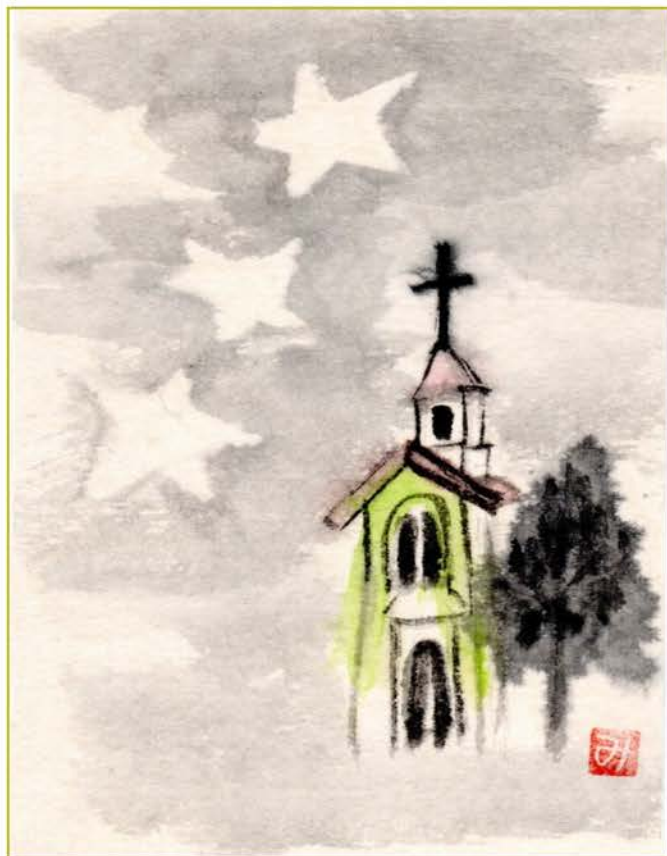
## 地銀66行が減益

## 5行は赤字=与信費用の拡大響く

ちぎん103行の中間決算



(黒字転換1行含む)



聖夜 岩波 美智子さん 画



## 日米合同演習反対 あいば野大集会

## 市民ら300人が抗議 オスプレイ訓練を強行

陸上自衛隊と米海兵隊による垂直離着陸機MV22オスプレイを使った日米共同訓練が12月1日、饗庭野演習場で開始されました。

同日、「故郷をアメリカ軍に使わせない滋賀県連絡会」が主催して「住民の命を守れ！実弾演習するな！オスプレイいらない！日米合同演習反対あいばの大集会」を開き、約300人が、さざなみネットから3人が参加しました。

参加した浦谷さんから感想をいただきました。

## 感想

狭い饗庭野演習場で、この4年間で3回も事故が起きています。2015年に民家の屋根裏に重機関銃により被弾し、昨年11月に演習場北に走る国道303号線に81mm迫撃砲を誤射、自動車



滋賀従組の仲間とともに参加

破損する大事故が起きました。そして今年9月、照明弾の部品が演習場外の民家からわずか70mの田んぼに落下しました。

3日には、沖縄普天間基地のオスプレイ2機が三重県の陸上自衛隊明野駐屯地を經由して飛来。軍事訓練が強行されました。

住宅地上空を飛行し各地の住民を不安に陥れています。このような状況を改善させるためには、日米地位協定の抜本的改正が必要であり、今後も頑張っていきたいものです。

このような集会を開かなくなるような状況に持っていきたいものです。集会宣言後デモ行進に参加しました。



## 第20回湖北母親大会

## 「ぼけますから、よろしくお願いします」

11月23日、長浜市民交流センターで第20回湖北母親大会があり、映画「ぼけますから、よろしくお願いします」が上映され、さざなみネットから2人が鑑賞しました。

参加した清水さんから感想をいただきました。

## 感想

90歳を超えた父と認知症の母を、遠く離れて暮らす娘が泣きながら1200日にわたり撮ったドキュメンタリー映画でした。母の認知症が進み、仕事を辞めて帰ろうかと考えている娘に「お前は好きな仕事を続ければ良い。わしが面倒見られるうちは見る」と言う父。「分からん分からん」と壊れていく自分に不安と苛立ちを募らせる母に、父は優しく寄り添い母も頼りにしています。

「ぼけますから、よろしくお願いします」と老親が心から言える世の中は、どんなに暮らしやすいだろう。信友監督のご両親の世代では、人様に何かやって貰うこと＝迷惑をかけることと嫌がる世代であり、また福祉の概念も希薄だと思えます。だからこそ母は、「ぼけますから、よろしくお願いします」と心からは言えなかったのかもしれないし、「死にたい」と口走ってしまったのだと思いました。

しかし、高齢化は家族の問題ではなく社会の

問題です。家族だけで解決できることではないから、監督は親という要介護者にカメラを向け続けたのではないのでしょうか。人間必ず頭も身体も弱る時がきます。私は「ぼけますから、よろしくお願いします」と国にいいます。

義父母の認知症と過ごした5年間と重なり涙が止まりませんでした。父、母、娘それぞれの立場で今とこれからを考えさせられました。

兵器の爆買い、金持ち優遇、税金の私物化……。庶民は安心して普通に暮らせる毎日を願っているのです。

